

## おひさま保育園 作品展

園長 藤井泉美

6月16日からの3日間、おひさま保育園では『あめ』をテーマに作品展を開催しました。

園児達の可愛い足型で作ったカタツムリや、一生懸命くしゃやくしゃに丸めたるてる坊主、粘土で作ったあじさいなどを飾りつけ、廊下には川や橋を作りました。制作風景の写真も展示して保護者の方に見ていただきました。



## 社会福祉法人さんよう 10周年記念ボウリング大会開催

6月4日、5日、18日の3日に渡ってボウリング大会を開催し、総勢85名の参加がありました。コロナ禍のため久しぶりのイベントとなりましたが、大いに盛り上がり、大好評でした。

入賞者には豪華賞品が贈られました。



**【個人部門】**  
1位 土岡さん(デイクと) 合計スコア319  
2位 松若さん(さんさん山陽) 合計スコア310  
3位 野村さん(特養くさど) 合計スコア290  
※スコアは2ゲームの合計です

**【団体部門】**  
1位 特養しんがいAチーム  
2位 小規模多機能チーム  
3位 包括・訪看チーム

## 赤ちゃんが誕生しました★



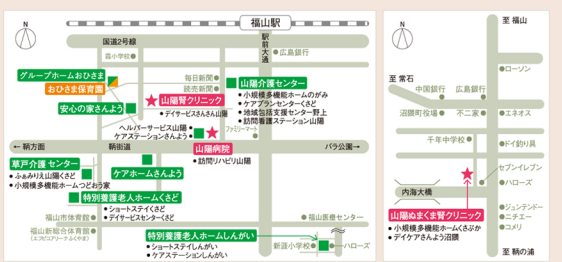
山陽病院  
看護師 田口さん  
2021年11月出産 第1子(男)

特別養護老人ホームしんがい  
介護福祉士 新山さん  
2022年3月出産 第2子(男)

**辰川会グループ**

【医療法人辰川会】  
**山陽病院** 外科/内科/泌尿器科/整形外科/リハビリテーション科  
〒720-0815 福山市野上町2丁目8番2号 Tel:(084) 923-1133(代) Fax:(084) 923-1158  
**山陽腎クリニック** 人工透析外科/人工透析内科  
〒720-0815 福山市野上町1丁目7番8号 Tel:(084) 928-5500(代) Fax:(084) 928-5535  
**山陽ぬまぐま腎クリニック** 透析外科/透析内科/外科/内科  
〒720-0311 福山市志保町2031-1 Tel:(084) 980-0034(代) Fax:(084) 987-3450

【社会福祉法人さんよう】  
**特別養護老人ホームくさど**  
〒720-0831 福山市野上町丁目8番24号 Tel:(084) 973-9911(代) Fax:(084) 928-9988  
**特別養護老人ホームしんがい**  
〒721-0955 福山市津和野町3丁目19番27号 Tel:(084) 961-3955(代) Fax:(084) 9261-3950



# ふれあい

【グループ理念】ともに歩む、ともに生きる



130  
2022.8発行  
TAKE FREE

辰川会 広報誌

## 「ユマニチュード認証制度」取得に向けて

山陽病院 病棟 主任看護師 池添公恵

山陽病院の地域包括ケア病棟では、日本ユマニチュード学会が今年からスタートした認証制度にチャレンジするため、推進プロジェクトチームを立ち上げました。

この認証制度は、「より良い認知症ケア」を通じて質の高いケアを実践し、その輪を広げていくことを目的としたものです。まずは、3段階あるうちのブロンズ(基本の理解と導入)の取得を目指します。

ユマニチュードは、認知症患者さんとより良い関係を築くため、相手を大切に思う「人間らしさと優しさ」に基づいた新しいケア技法です。例えば、相手に触れる時は、手のひら全体で優しく背中に手を添えるなど、広い面積でゆっくりと優しく触れ、相手の反応を見ながらコミュニケーションをとっていきます。

高齢化が加速する中、入院患者さんに認知症を持つ方が増えています。医療者が患者さんのために必要であると思っ行うケアや身体拘束は、本人にとっては苦痛となり、拒否や大声、不穏状態の引き金になります。ケアを受ける人もケアをする人も幸せでない、どうしてよいかわからないというのが現状でした。そんな時、実際にこの技法を使ってお互いの関係性が良好になっていく動画を見



て、やってみたい!!と思いました。

ユマニチュードは、職員の身体的・精神的な介護負担を軽減でき、専門職としてのスキル向上にも役立ちます。患者さんも職員も関わる全ての人が生きがいや、やりがいを感じ、幸せに過ごせるよう取り組んでいきたいと思ひます。

## スマート介護士の資格を取得

特別養護老人ホームくさど 介護福祉士 佐藤真一郎

スマート介護士とは、介護の現場においてロボットやセンサーなどの技術を活用しながら介護の質の向上と業務の効率化を図ることができる介護士のことです。介護ロボットを導入しても実際に使いこなせる介護士が少ないという現状を危惧し、2019年3月に創設された新しい資格です。

代表的なロボットには、移乗支援(装着型パワーアシスト)、移動支援(歩行アシスト)、見守りセンサー、コミュニ

ケーションロボットなどがあります。このような技術の応用により現場で働く職員にとっては、利用者様の移乗を行う時の身体的負担が軽減され、人手不足の課題解決にもなります。そして、介護者の気持ちにゆとりが生まれることで、利用者様に対してゆとりのあるケアにも繋がります。

さらに、利用者様にとっても、安全で楽に移乗ができ、見守りセンサーで動きを察知することで転倒によるけがも防止できます。介護者に対して抱く「申し訳ない」「恥ずかしい」などの心理的負担も軽減できます。当法人ではいくつかの介護ロボットの導入がすでに行われており効果を実感しています。

今後は、ロボットを上手に活用しながらも、人の温もりや優しさを伝えられるスマート介護士になりたいです。







いしはら ひろと  
石原 浩人

福山生まれの福山育ち(光小学校→鷹取中学校)ですが、高校から広島市の修道高校に進学、広大医学部卒です。卒業後は30年以上、広島市内の病院に勤務していましたが、この度福山に戻ってきました。専門は消化器内科ですが、内科系疾患は何でも診させていただきますのでよろしくお願いします。

## 「未来の医療を創るプロジェクト」に協力して 山陽腎クリニック 主任 臨床工学技士 矢野真悟

6月15日～7月14日にかけて行われた「未来の医療を創るプロジェクト」に協力しました。このプロジェクトは、広島大学と広島大学附属福山高校の生徒が共同で行ったもので、高校生が医療や臨床研究の現場を見ることで生まれる素直な疑問と気づきを、これからの医療の発展に役立てる取り組みです。

今回は医療機器がテーマということで、実際に医療機器を使って透析治療を行う立場として山陽腎クリニックに声が掛かり、協力することとなりました。

まずは、私たちが普段使っている透析機器をはじめ、山陽病院内のCTやMRIなども紹介し、これらの機器が患者様の治療にどのように役立っているのかを説明しました。

生徒の皆さんからは、医療機器の点検や耐用年数の

管理についての質問や、新型コロナや災害といった、今まさに対策を行わなければならないリスクについての質問がありました。プロジェクトでは他にも、医療機器メーカーの開発担当者の話を聞いた日もあり、さらに学びを深めたそうです。

最後には、生徒から未来の医療機器についての発表があり、「穿刺なしの透析」や、「糖尿病の早期発見」についてのアイデアは、私たちの仕事にも関わりのあるもので大変感心しました。

今回の交流が、高校生の皆さんにとって医療に興味を持つきっかけになればと思うとともに、私も初心を忘れず、様々な角度で物事を観察し、これからも多くの患者様のお役に立ちたいと改めて考える良い機会となりました。



## 外国人技能実習生が来てくれました

特別養護老人ホームくさど 施設長 藤井孝紀

特別養護老人ホームくさどでは、6月21日からフィリピン出身の2人の技能実習生が勤務しています。

コタバト州出身のケンさんとネグロスオリエンタル州出身のマリオさんは、介護福祉士の資格と特定技能1号の

在留資格の取得を目標に来日しました。



2人は志が高く勉強熱心で、日本語を学び日本の文化・習慣を理解することで、利用者・入所者の思いに寄り添えるようになりたいとのことでした。

事業所内では、2人のひたむきな姿を見て、スタッフからは「原点に立ち返ることができた」、「周囲の人を明るく優しい気持ちにする」などの声が上がっており、2人を受け入れたことによる相乗効果が生じています。

今後も数名の実習生を受け入れる予定をしており、新しい風が吹くことを期待し、多文化共生社会を構築していくための一助になるものと思います。

## ふれあい看護体験

7月30日、山陽病院に葦陽高校、盈進高校、県立東高校の生徒6名が広島県看護協会主催の「ふれあい看護体験」に来てくれました。

血圧や脈拍測定、車いすやストレッチャー体験などを行い、「患者様への声かけやコミュニケーションの大切さを学んだ」「看護師さんの生の声が聞けて良かった」と感想をいただきました。



## 2022年度 新入職員 フォローアップ研修

山陽腎クリニック 臨床工学技士 藤岡祥之

7月23日、神石高原町阿下の山の家で行われた研修に15名が参加し、3か月間の振り返りとグループワークを行いました。グループワークでは、ヒントカードをもとに仲間と地図を

完成させるゲームや、パスタとマシュマロを使って塔の高さを競うゲームを行い、協力して課題に取り組む力とリスクを予測し意思決定する力を身につけました。

当日は良く晴れていたのですが暑さを心配していましたが、山の家はとても涼しく、研修の最後はみんなで虫取りをして楽しみました。久しぶりに同期と集まって日々の業務での苦労や悩みを共有でき、有意義な時間を過ごすことができました。今後も仲間と支え合いながら、チーム医療に貢献できるよう努力していきたいです。



## 第67回 日本透析学会学術集会・総会

山陽腎クリニック 臨床工学技士 リーダー 坂下善仁

7月1日から3日間、横浜市で開催された日本透析医学会学術集会に辰川会からは9名参加し、山陽腎クリニックからは私を含め3名が、日頃の研究成果を発表しました。

私は、穿刺専用エコー機の導入でスタッフの技術が向上し、穿刺ミスの減少に繋がったことを発表しました。山陽腎クリニックは全国的に見ても、エコーを活用した穿刺の回数が多く、先進的な取り組みということで、他の参加者からは多くの質問が寄せられました。

会場では、研究発表のほかに展示コーナーもあり、腎クリニックのスタッフと一緒に回りました。今回は、「透析医療のSDGsを求めて」がテーマということで、今後の医療を支えていくような最新の医療機器や薬剤がいくつもありました。特に、透析治療と切り離すことのできない貧血の新薬について、全国の臨床データをもとに有効性が示されていたのは大変興味深く、山陽腎クリニックの今

後の診療にも役立てられそうでした。

コロナ禍でこの2年はオンラインでの開催でしたが、今年は久しぶりの現地開催となり、オンラインの時よりも多くの情報を得ることができた気がします。今後も最新の情報を積極的に取り入れて知識を増やし、日頃の透析治療に生かしていきたいです。



### 外部発表

第67回日本透析学会学術集会・総会 7/1～3 パシフィコ横浜

- 心不全症例におけるAVFから上腕動脈表在化へのアクセス変更の検討 (ポスター発表) 山陽腎クリニック 院長 池辺宗三人
- 当院におけるエコー下穿刺の実績 (ポスター発表) 山陽腎クリニック 臨床工学技士 リーダー 坂下善仁
- 大動脈弁狭窄症による透析困難症に対してon-lineHFが著効した一例 (ポスター発表) 山陽腎クリニック 臨床工学技士 大山徹